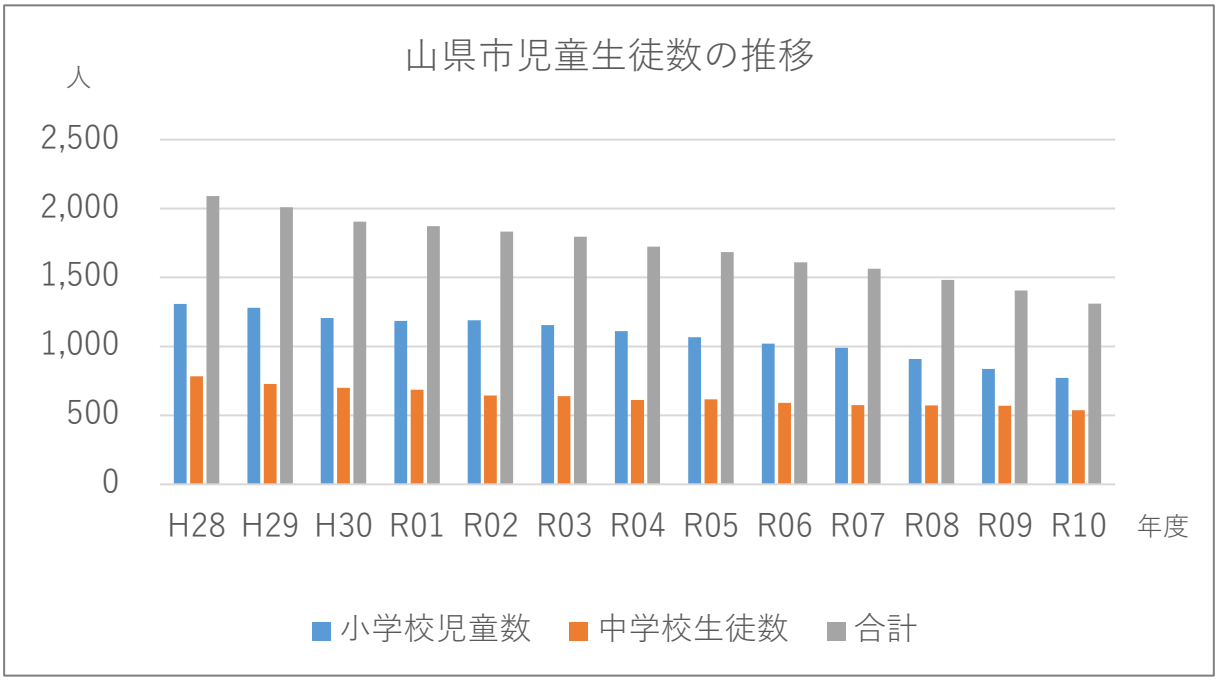
これまでの検討内容の整理

１　「１学年１００人時代」の到来

児童生徒へのきめ細かな支援を目的とした岐阜県型少人数教育は、２５人以下学級による習熟度に応じた教科指導や１学級の人数を４０人から「３５人学級」を目指し、計画上では令和５年度には小学１年生から中学３年生までの「３５人学級」が完成する。

山県市においては、平成３年度に児童生徒数４，０５３人であったものの、平成１７年度には３千人を割り、その後も減少傾向は続き、平成３０年度には２千人を割り込み、令和４年度現在では１，６９６人となっている。

新型コロナウイルス感染症の影響もあってか、令和３年度の新生児数は１００人を下回った。いわゆる「学年１００人時代」が現実となった。



【学校規模】

現在、山県市全１２校（小学校９校、中学校３校）において、国が示す「学校の適正規模」である学年２学級以上に該当する規模の学校は、小学校２校、中学校１校である。小規模化が進む山県市は、小学校３校が複式学級を有し、全校児童数は５０人を下回っている。今後さらに小規模化は進んでいく。

山県市立小中学校の学級数及び児童生徒数推移表

学校名		H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	R09	R10
高富小	学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	10
	人数	372	364	334	335	332	325	316	310	305	300	274	269	252
富岡小	学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11
	人数	323	320	317	301	313	319	317	303	290	284	268	244	223
梅原小	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	4
	人数	65	68	68	65	63	64	59	54	50	47	47	43	35
大桑小	学級数	5	5	4	5	5	4	4	4	4	4	3	3	3
	人数	52	48	42	42	49	42	42	39	37	35	29	22	19
桜尾小	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	4	4
	人数	69	69	77	68	74	75	67	63	57	49	42	36	34
伊自良南小	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5
	人数	118	111	100	105	110	99	96	96	90	82	69	65	59
伊自良北小	学級数	4	4	4	3	3	4	4	3	3	4	4	3	3
	人数	39	39	33	33	30	29	27	26	25	27	29	24	22
美山小	学級数	9	8	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6
	人数	244	232	208	208	182	177	159	147	138	138	129	106	106
いわ桜小	学級数	4	3	4	3	4	3	3	4	3	3	3	3	3
	人数	26	29	27	29	37	25	29	30	29	28	23	28	23
小学校計	学級数	64	62	61	60	61	59	59	59	57	57	54	54	49
	人数	1,308	1,280	1,206	1,186	1,190	1,155	1,112	1,068	1,021	990	910	837	773
高富中	学級数	15	15	14	13	13	13	12	13	13	13	13	12	12
	人数	519	478	454	464	432	432	403	422	418	410	411	408	391
伊自良中	学級数	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	人数	110	94	94	85	73	69	72	73	66	65	66	63	58
美山中	学級数	6	6	6	6	5	5	5	5	4	4	4	4	4
	人数	154	157	151	137	139	139	137	122	106	99	96	98	89
中学校計	学級数	25	24	23	22	21	21	20	21	20	20	20	19	19
	人数	783	729	699	686	644	640	612	617	590	574	573	569	538
合計		2,091	2,009	1,905	1,872	1,834	1,795	1,724	1,685	1,611	1,564	1,483	1,406	1,311

※　平成28年度から令和4年度までの数値は、毎年度5月1日現在の実数です。

※　令和5年度から令和10年度までの数値は、推計です。

※　学級数及び人数には、特別支援学級及び特別支援学級の児童生徒数を含めていません。

※　学級数の網掛けは、複式学級数があることを示しています。

【５年後予測】

令和９年度の児童数は８３７人（令和４年度比較▲２７５人)、生徒数は５６９人（▲４３人）が見込まれている。学校規模は小学校９校中の５校で複式学級を有し、学年２学級以上の規模の学校は１校となる。中学校では、３校中１校が学年単学級である。現在よりさらに小規模化が進むことが予測されている。

２　平成１９年以降の教育委員会の取組

平成１９年の山県市立小学校及び中学校適正規模等検討委員会の答申を踏まえ、教育委員会は、「１学年１５人を下回る小規模小学校については適正規模化の検討を進めることとし、併せて複式学級が存在しないよう学校の統合を行う。」とした「山県市立小学校及び中学校適正規模推進基本方針」を策定し、平成２２年度には、西武芸小学校、富波小学校、乾小学校を統合し、美山小学校を開校している。

【国の動向】

近年、小学校高学年における身体的発達の早期化や自己肯定感の低下、中学校段階における環境への不適応に起因する不登校や学習意欲の低下等が社会問題となっている。このような背景の下、９年間を一貫した教育を行う小中一貫教育が制度として導入され、「義務教育学校」といった新しいタイプの学校の設置が可能となった。同時に、保護者や地域のニーズに応じた多様で機動的な学校運営を可能にした「コミュニティ・スクール」が導入され、「学校運営協議会」の設置により地域住民の意見や要求が反映され、「地域の中の学校」としての経営が色濃くなった。

【山県市の取組】

児童生徒数の減少を踏まえ、各学校の学校運営協議会において、学校の適正規模化について協議を行っているが、児童生徒数の減少は、年度ごとや学校・学級単位で見ると「わずかな減少」であり、少人数教育の良さを、山県の教育の魅力と捉える見解が主流である。

他方、新型コロナウイルス感染症拡大防止と相まって、国のＧＩＧＡスクール構想が前倒しされ、教育委員会は令和３年度中には学校のＷｉ－Ｆｉ環境を整備し、児童生徒一人１台タブレット端末からのインターネット接続が可能となるとともに、「オンライン授業」という新たな教育方法により、学校規模に関係なく同時に同一の授業を受けることが可能となった。

【小規模校の教育課程の工夫】

意図的に学習集団を大きくする機会を設定し教育効果を高めている。

（１）　異年齢学習

桜尾小学校では、２学年で学習集団を形成し英語科の授業を行っている。また、縦割り集団による清掃活動等に加えて、総合的な学習の時間を使った異学年集団による探求学習を行っている。

（２）　小小連携

いわ桜小学校では、スクールバスを利用して美山小学校に移動し、体育や音楽等教科の授業を合同で行っている。反対に、美山小学校がいわ桜小学校に移動して、自然探求学習を行っている。

（３）　小中連携

伊自良中学校では、スクールバスを利用して、伊自良南小学校、伊自良北小学校を中学校に集め、小中合同の運動会を実施している。

（４）　オンライン授業

桜尾小学校と大桑小学校、梅原小学校では、英語科の授業をオンライン合同授業として実施している。

こうした取組は各学校で計画的に実施されている。

３　現状認識

まずは、児童生徒数の減少、学校の小規模化を認識するため、「学校の規模に関するアンケート調査」を行った。

【調査概要】

実施時期　令和３年１０月

対 象 者　小中学校、保育園等の保護者等約２，０００人

回 収 率　８７．８％

以下、小学校を次のように分類する。 中規模小学校（中規模校）：高富小・富岡小 小規模小学校（小規模校）：梅原小・桜尾小・伊自良南小・美山小 複式学級がある小学校（複式校）：大桑小・伊自良北小・いわ桜小

【主な調査結果】

質問１　全校児童生徒数について、どう思いますか。

中規模校　「ちょうど良い」７１％

小規模校　「やや少ない」「少ない」７２％
複式校　　「少ない」７８％
高富中　　「ちょうど良い」７８％
伊自良中　「やや少ない」「少ない」８０％
美山中　　「やや少ない」「少ない」５６％　「ちょうど良い」４２％

質問２　１学級あたりの児童生徒数は、何人程度が望ましいと思いますか。

中規模校　「２１～３０人程度」７１％　「１１～２０人程度」２６％
小規模校　「２１～３０人程度」５６％　「１１～２０人程度」３８％
複式校　　「１１～２０人程度」５６％　「２１～３０人程度」３４％
高富中　　「２１～３０人程度」８５％
伊自良中　「２１～３０人程度」７３％　「１１～２０人程度」２５％
美山中　　「２１～３０人程度」７３％　「１１～２０人程度」２１％

どの学校も、現在の１学級あたりの児童生徒数に近い人数を望ましいと感じており、「３１人以上」を望ましいと感じている方は少ない。

質問３　１学年に何学級あるのが望ましいと思いますか。

中規模校　「２～３学級」９１％
小規模校　「２～３学級」７２％
複式校　　「１学級」４６％　「２～３学級」４５％
高富中　　「４学級以上」６４％
伊自良中　「２～３学級」８４％
美山中　　「２～３学級」９１％

多くの学校で、「２～３学級」を望ましいと感じている。

質問５　将来を見据え、学校の規模や校区を見直すことについて、どう思いますか。

中規模校　「積極的」または「将来的」に取り組む必要がある　９１％
小規模校　「積極的」または「将来的」に取り組む必要がある　９１％
複式校　　「積極的」または「将来的」に取り組む必要がある　８８％
高富中　　「積極的」または「将来的」に取り組む必要がある　９２％
伊自良中　「積極的」または「将来的」に取り組む必要がある　９３％
美山中　　「積極的」または「将来的」に取り組む必要がある　８７％

どの学校も、８割以上の方が「積極的」または「将来的」に「学校の規模や校区を見直すことに取り組む必要がある」と答えている。

なお、令和４年７月、単位自治会長１５３人を対象に同様のアンケート調査を行ったところ、回収率は６４．７％であった。回答の全体の傾向としては、保護者と大きな差は見られなかった。

４　現状分析

学校規模と生徒指導上の問題や学力等との関係についてまとめてみた。

（１）　全児童数に対する不登校児童数（年間３０日以上欠席）の割合

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
中規模校	１．１％	１．６％	１．６％
小規模校	０．２％	０．４％	０．６％
複式校	０％	０％	０％

小規模校、複式校における不登校児童数の割合は１％以下であり、不適応を起こす児童は少ない。

（２）　高富中学校区における全不登校生徒数に対する出身小学校の規模による不登校生徒（年間３０日以上欠席）の割合

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
中規模校卒業生	６０．０％	７３．９％	８２．８％
小規模校卒業生	２５．０％	８．７％	８．６％
複式校卒業生	５．０％	８．７％	０％
他市校卒業生	１０．０％	８．７％	８．６％

中学校における不登校生徒のうち、小規模校の卒業生の割合は低く、複式校や小規模校を卒業した生徒は、中学校でも環境に順応している。

（３）　全児童数に対するいじめ認知件数の割合

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
中規模校	０．６％	３．１％	３．０％
小規模校	５．８％	２．６％	３．３％
複式校	５．８％	３．４％	１１．２％

いじめ認知件数の割合は、小規模校、複式校の割合が高く、学級の児童数が少ないと、問題行動に対して、発見、認知しやすくなる。

（４）　全国学力学習状況調査結果分析から

①　全児童数に対する自己有用感を感じている児童数の割合

全国学力学習調査質問紙で、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対し「当てはまる」と回答した児童の割合を指標とした。

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
中規模校	５７．０％	４３．５％	３６．６％
小規模校	３６．８％	４３．１％	３８．０％
複式校	２５．９％	３８．８％	３０．０％

自己有用感を感じる児童の割合は、中規模校が高い傾向にある。多くの児童や教師から賞賛される機会があり、自己有用感が高まる。

②　全児童数に対する問題正答数上位３０％、下位３０％の児童数の割合

全国学力学習調査の各教科（国語、算数、理科）において、県平均を基準に、各小学校の問題正答数上位３０％、下位３０％の児童数の割合を指標とした。その結果、学校規模による顕著な差は見当たらない。学校規模に合わせて、指導法方法を工夫し、学力の定着を図っている。

（５）　地域に根ざしたふるさと教育

長年にわたり伝統文化の継承を目的にした授業が行われている。平成２０年には「学校コラボレーター制度」を創り、地域の各種専門家が「地域の先生」として授業を行う取組が始まっている。

①　伝統文化

大桑城学習（高富小）　梅原音頭（梅原小）
大桑城登山（大桑小）　史跡巡り（大桑小・桜尾小）
十六拍子（伊自良北小）　竹灯籠作り（伊自良北小）
神楽（美山小）　葛原太鼓（いわ桜小）　ススキミミズク作り（いわ桜小）

②　地域交流

世代を超えて（高富小）　ゆう友ふれあいフェスタ（梅原小）
かしの木フェスタ（大桑小）
ふれあい学習（美山小）　ふるさと祭り（いわ桜小）

③　学習支援

稲作（高富小・梅原小・大桑小・伊自良北小・美山小・いわ桜小）
サツマイモ栽培（富岡小）　大豆栽培（梅原小・大桑小・伊自良南小）
味噌作り（梅原小）　栗の植樹（大桑小）　桜の植樹（桜尾小）
茶摘み（伊自良南小　伊自良北小）　ギフチョウ飼育（伊自良北小）
アマゴ飼育（伊自良北小・いわ桜小）　イワザクラ育成（いわ桜小）

（６）　これからの時代が求める教育

子どもたちは、ＩＣＴ機器を使いこなせる能力が必要な社会で、自己実現を図ることが求められることは十分に理解できる。一人１台タブレット端末の整備はその象徴であるが、これまでのアナログ的な思考や体験により得た感受性や知恵、協働の喜びや自己効力感を重視した教育が位置付けられている。

①　学力保障

異年齢学習（山県式イエナプラン）　異見交流（ダ・ビンチルーム）
オンライン学習　小規模小学校合同授業
複式学級解消（学年別授業）
小学校教科担任制

② 実体験教育

川と森の学校（美山の自然の中で体験プログラム）

山と歴史の学校（大桑の遺跡を巡るアクティブラーニング）【予定】

防災と科学の学校（断層を調査し、防災対策研究レポート作成）【予定】

世界遺産・海体験（市内にない遺産や自然に触れる体験学習）

５　適正規模化の視点

山県市の教育の特長は、小規模校が多く少人数による学習や活動が基本である。「一人一人の活動の機会」が保障され、教員一人当たりの児童生徒数が少ないことから「教員のきめ細かな指導」が充実し、学校生活に対する安心感につながっているという見方が強い。こうした現状から、１学級１５人～２５人の少人数教育を保護者は願っている。

また、地域に密着した教育活動が継続的に行われており、地域の支援体制により自然体験など実体験を通して学ぶ教育が展開されている。

一方、児童生徒数の減少には歯止めはかからず、年々教室内は小さな集団化が進み、複式学級を有する学校は今後も増加が予測される。このことは、例えば、体育の集団種目の授業は限定的な内容になったり、話合い活動や人間関係は固定化したりする傾向にあり、意図的・計画的に大きな集団を形成し、中規模校の特長でもある切磋琢磨して学習できる機会が必要である。また、小学校の教科担任制や「中１ギャップ」といった学校不適応への対応も必要である。

こうした状況を総合的に捉え、小規模校の強みと中規模校の良さを共に実現できる教育のあり方を山県市の学校の適正規模を考える視点として、山県市の子どもたちに必要な教育環境を以下の７項目として整理する。

① 保護者の願いは、１学級１５～２５人程度の少人数教育である。
② 個に応じた指導と仲間との学習を組み合わせた教育活動を行う。
③ 自然を感受し、地域に密着した教育活動を継続する。
④ 子ども同士のリアルなコミュニケーションの機会を増やす。
⑤ 考えの違う人との対話や議論を通してお互いに切磋琢磨する。
⑥ 小学校においての教科担任制を進める。
⑦ 小中一貫の教育体制を構築する。

６　シミュレーション

本市の教育の特長を生かした小中学校の適性規模化を具体的にイメージしてみる。

（１）　小規模校の統合

学級の児童生徒数を１５～２５人程度とするためには、第一に複式学級を有する小学校を地区内の小学校に統合することが考えられる。

○　伊自良北小学校は伊自良南小学校に統合、いわ桜小学校は美山小学校に統合すると、大半が各学年１学級３０人程度となる。

○　大桑小学校は桜尾小学校と統合すると、１学級２０人程度となる。

○　大桑小学校と桜尾小学校、梅原小学校を１校に統合すると、学年１学級３０人程度となる。

○　小規模校同士で統合したとしても、基本的に学級数は増えず学年１学級となり、１学級の児童数は２０人から３０人となる。

○　統合前の総教員数に対して、統合後の教員数は明らかに減少する。

（２）　小規模小学校と中規模小学校を統合

小規模小学校の統合先を学年２学級ある中規模校としてみる。

○　梅原小学校を高富小学校に統合すると、学級が増えず１学級児童数は３０人以上となる。

○　大桑小学校と桜尾小学校を富岡小学校に統合すると、学年の学級数は１学級増加し学年３学級となるが、就学前の年齢が小学生になる頃には現在同様の学年２学級になり、１学級３０人程度になる。

○　教員数の増加にはつながらない。

（３）　小中一貫校「義務教育学校」に統合

小規模中学校に小学校を統合する。

○　伊自良中学校に伊自良南小学校と伊自良北小学校を統合し、（仮称）伊自良学園義務教育学校にする。美山中学校に美山小学校といわ桜小学校を統合し、（仮称）美山学園義務教育学校にする。

○　基本的に学年の学級数は増えず、１学級の児童生徒数が増える。結果的に教員数は減ることになる。

○　現有の中学校の施設に小学校の全学級を入れようとしても教室数が不足する。子どもの人数の推計から見て、新たな校舎建設には十分な検討が必要である。

○　現有施設のまま小中一貫校とするなら、小学校と中学校は施設分離型となる。小学校と中学校の立地距離を踏まえると、小中学校の教員が移動して授業を行うことは効率的ではない。

（４）　学校を維持したまま学校間連携

スクールバスを利用して、授業や学校行事等によって児童が移動し合同の活動を行う。

○　いわ桜小学校の５・６年生が美山小学校へ移動し授業を行う。学級を２分割した授業や教科担任制の授業を増やすことが可能となる。

（５）　山県方式小中一貫校

小規模小学校を現状のまま維持しつつ、例えば、４年生以上は合同授業を基本とし、さらに６年生は中学校で授業を行う。

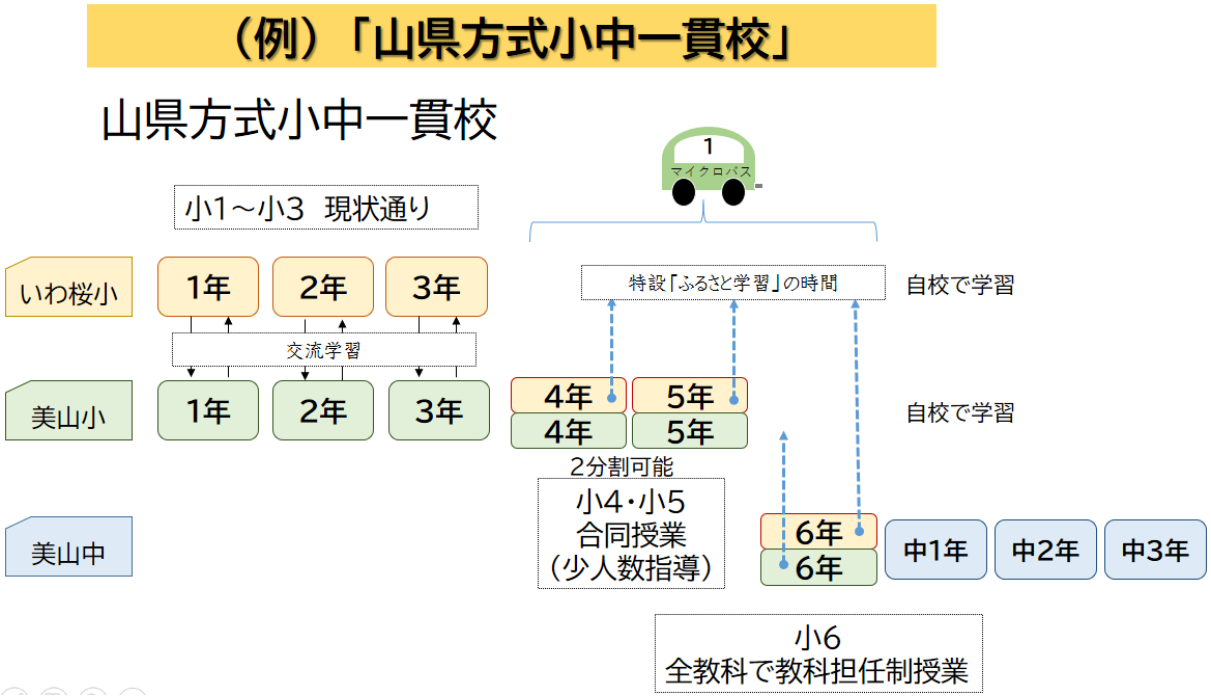
○　４・５年生は合同授業や２分割授業を行う。６年生は全教科担任制の授業を行う。

○　必要に応じて、１～３年生も交流授業を行う。

○　特別教科を設定し、定期的に所属校で授業を行う。

○　学校や教員数は維持され、教育方法を柔軟に仕組むことができる。

○　スクールバスによる遠距離通学の児童生徒が生まれ、通学時間の負荷は課題である。



７　まとめ

○　児童生徒数は３０年以上前から減少傾向にあり、山県市全体でも令和３年度の０歳児は学年１００人を下回っている。さらに、この傾向は地域差が大きく、

高富小学校、富岡小学校、高富中学校以外の９校では、現状の学年単学級も維持できなくなり、複式学級を有する学校が増えることは十分に予想できる。

○　学年ごとの教科書を主たる教材として使用する日本の教育制度上、複式学級の解消は必要であり、併せて小学校教科担任制の実現も必須である。

○　「山県市教育ビジョン２０２０」を策定し、小規模化していく中での教育の具体的施策として、「異年齢学習の実施」「（スクールバス移動による）合同授業の実施」「オンライン授業の実施」「合同部活動の実施」等を進め、異学年の交流や学校間連携により学習集団を大きくする取組の成果が見え始めている。

○　山県市の特長である「地域に密着した教育」や「スクールバスによる移動」「ハイスペックなＩＣＴ機器の配備」といった教育環境、さらには「学校間連携が進めやすい自治体規模」であることや「教育委員会と市長部局の連携」が密であることなどを生かした独自の教育改革に期待ができる。

○　１学級１５～２５人程度の少人数教育を基本にすることと、岐阜県の教員配当基準を踏まえた教員数の確保について熟考することで、個に応じたきめ細かな指導と社会性を身に付けていく仲間との学習を両輪とした教育を追求したい。

○　少子化の問題の解決を、学校や学級の人数を増やす方策として学校統合に求めてきた歴史がある一方で、学校不適応やいじめ問題等は増加していることも事実である。子どもにとって、学校の居場所が学級ひとつである基本的な仕組みが、生き辛さに繋がったり立ち直りの難しさに繋がったりしているという見方もあり、子どもの成長をきちんと保障する仕組みが重要である。

○　適正な学校の規模というものは子ども一人一人にとって異なるものであり、子どもにとっての適正規模を問う必要がある。

○　本来の教育の目的に立ち、一人一人の学びの保障に軸足を置き、多様な学びが選択できる学習環境を整備することが学校の適性規模を考える際に重要になる。これまでの概念にとらわれることなく、山県市全体の教育環境を最大限に生かした独自のシステム「山県方式」を創り出していくことにも意味がある。

山県市立小学校及び中学校適正規模等検討委員会開催状況

１　令和３年度第１回

日　　時　令和４年２月９日（水）　午後３時００分～午後３時５５分
場　　所　山県市役所３階大会議室
出席委員　１３人
欠席委員　１人
主な内容
　１　委嘱状交付
　２　山県市教育委員会教育長あいさつ及び趣旨説明
　３　委員長及び副委員長選出
　４　議事
　　（１）　諮問伝達について
　　（２）　山県市の教育の現状及び児童生徒数の推移について
　　（３）　学校の規模に関するアンケート結果について

２　令和３年度第２回

日　　時　令和４年３月２４日（木）午後２時００分～午後３時５０分
場　　所　山県市役所３階大会議室
出席委員　１３人
欠席委員　１人
主な内容
　１　前回議事録の確認
　２　議事
　　（１）　配布資料説明
　　（２）　学校の規模に関するアンケート調査結果に関する意見交換
　　（３）　論点整理

３　令和４年度第１回

日　　時　令和４年６月１日（水）　午後２時００分～午後３時３０分
場　　所　山県市役所３階大会議室
出席委員　１０人
欠席委員　３人
主な内容
　１　委員紹介（新委員への委嘱状交付）
　２　前回議事録の確認
　３　議事　論点の整理について

４　令和４年度第２回

日　　時　令和４年７月２１日（木）　午後２時００分～午後３時０５分

場　　所　山県市役所３階大会議室

出席委員　１２人

欠席委員　２人

主な内容

１　前回議事録の確認

２　自治会長向けアンケート結果について

３　議事　山県市の新しい学校の姿について

５　令和４年度第３回

日　　時　令和４年１０月１７日（月）　午後２時００分～午後３時３０分

場　　所　山県市役所３階大会議室

出席委員　１２人

欠席委員　２人

主な内容

１　前回議事録の確認

２　議事

（１）　シミュレーションのまとめについて

（２）　小規模校の実践状況について

（３）　これまでの検討内容の整理について

（４）　答申（案）について

６　令和４年度第４回

日　　時　令和４年１１月２１日（月）　午後２時００分～午後２時５５分

場　　所　山県市役所３階大会議室

出席委員　１１人

欠席委員　３人

主な内容

１　前回議事録の確認

２　議事

（１）　これまでの検討内容の整理について

（２）　答申（案）について